次期「三重県ひきこもり支援推進計画」策定に向けて

ひきこもりの現状

■ こども・若者の意識と生活に関する調査（令和４年度）

・ひきこもり状態にある方
　：全国　　約146万人
　：三重県　約　2万人（単純推計）**国民50人に1人の割合**

増加

・過去調査におけるひきこもり状態にある方
　：全国　　約115.4万人（H27年度・H30年度）
　：三重県　約　1.6万人
※調査が異なるため、単純比較はできないことに留意

・広義のひきこもり群の割合

	有効回答数に占める割合
15～39歳	2.05%
40～64歳	2.02%

・男女別割合

	男性	女性
15～39歳	53.5%	45.1%
40～64歳	47.7%	52.3%

・ひきこもり状態になった理由として「新型コロナの流行」をあげた方の割合（複数回答）

15～39歳	18.1%
40～64歳	19.8%

ひきこもり支援状況

■ 県のひきこもり相談窓口

三重県ひきこもり地域支援センター（平成25年開設）

・電話相談、来所相談、精神科医師による面接相談　等

■ 市町のひきこもり相談窓口等

（１）ひきこもりに関する相談窓口の明確化と周知

全２９市町において相談窓口の明確化と周知済

（２）市町村プラットフォームの設置・運営

２３市町で設置済

（３）支援対象者の実態やニーズの把握

１１市町で実施済

■ 市町のひきこもり地域支援センター等運営状況

（１）ひきこもり地域支援センター事業　　３市

相談支援・居場所・ネットワーク・当事者会/家族会・住民への普及啓発 等

（２）ひきこもり地域支援ステーション事業　２市

相談支援・居場所・ネットワーク 等

（３）ひきこもりサポート事業　　４町

相談支援等の任意事業

■ 重層的支援体制整備事業・移行準備事業実施市町（R3年度～）

重層的支援体制整備事業　１１市町
移行準備事業　２市町

計画目標の進捗状況

計画全体の目標

目標項目	現状値（3年度）	4年度実績	5年度実績	6年度目標値
「ひきこもりに関する理解が進んだ」と感じる県民の割合（※1）	―	87%（※3）	90.9%（※5）	70%
「ひきこもり当事者やその家族に寄り添った支援体制の整備が進んでいる」と考える相談支援機関の割合（※2）	―	37%（※4）	57.8%（※6）	70%

※1 ひきこもり支援フォーラムに参加した県民の皆さんを対象にしたアンケート調査において、ひきこもりに関する理解が「進んだ」「やや進んだ」と回答した割合

※2 ひきこもりに関する支援機関を対象にしたアンケート調査において、ひきこもり当事者やその家族に寄り添った支援体制の整備が「進んだ」「やや進んだ」と回答した割合

※3 令和4年4月16日開催のフォーラムでは、「進んだ」「やや進んだ」と回答した割合が82.8%、令和4年8月27日開催のフォーラムでは、「進んだ」「やや進んだ」と回答した割合が91.7%で2回のフォーラムの平均値が87%

※4 ひきこもりに関する支援機関315機関を対象にしたアンケート調査において、ひきこもり当時者やその家族に寄り添った支援体制の整備が「進んだ」「やや進んだ」と回答した割合が37%

※5 令和5年9月3日開催のフォーラムで「進んだ」「やや進んだ」と回答した割合が90.9%

※6 ひきこもりに関する支援機関309機関を対象にしたアンケート調査において、ひきこもり当時者やその家族に寄り添った支援体制の整備が「進んだ」「やや進んだ」と回答した割合が57.8%

次期「三重県ひきこもり支援推進計画」策定に向けて

6つの取組方向ごとの目標（モニタリング指標）

取組方向	項目	現状値（3年度）	4年度 実績	5年度 実績
取組方向1	○ひきこもり支援に関する講演会等への参加者数	―	382人（4月） 420人（8月）	500人
	○SNSアカウントにおける投稿件数	―	215件	150件
取組方向2	○市町における相談窓口の明確化・周知および市町プラットフォームの設置・運営数	相談窓口21市町 プラットフォーム19市町	相談窓口29市町 プラットフォーム20市町	相談窓口29市町 プラットフォーム23市町
	○相談支援機関における新規相談件数	―	1,338件	1,298件
	○不登校児童生徒が、学校内外の機関等での相談・指導等を受けた割合	小学生　72.9％ 中学生　63.2% 高校生　58.0% （2年度）	小学生　66.7％ 中学生　63.2% 高校生　50.0% （3年度）	小学生　70.9％ 中学生　61.5% 高校生　49.9% （4年度）
取組方向3	○三重県ひきこもり地域支援センターにおける専門相談件数（延べ）	275件（2年度）	368件	531件
	○家族教室への参加者数（延べ）	42人（2年度）	56人	103人
取組方向4	○三重県ひきこもり地域支援センターにおける多職種連携チームによる支援件数	―	17件	20件
	○アウトリーチ支援員による面談・訪問・同行支援件数（延べ）（三重県生活相談支援センター）	127件（3年12月）	237件	272件
	○不登校支援アドバイザー等による訪問型支援を実施した人数および実施回数	22人／134回 （2年度）	87人／303回	220人／941回
取組方向5	○ひきこもり当事者のための居場所数	24か所	42か所	45か所
	○子どもの居場所数	78か所（3年12月）	135か所	181か所
	○民間施設（フリースクール等）が行う体験活動への支援回数	17回（3年12月）	76回	29回
	○地域若者サポートステーションにおける相談件数	6,518件（2年度）	5,960件	6,542件
取組方向6	○相談支援包括化推進員養成数	56人（2年度）	33人	19人
	○ひきこもりサポーター制度の創設	―	調査検討	調査検討

「第二期三重県ひきこもり支援推進計画（仮称）」の策定方針（案）

現行の「三重県ひきこもり支援推進計画」の計画期間が最終年度を迎えることから、以下の方針により「第二期三重県ひきこもり支援推進計画（仮称）」を策定します。

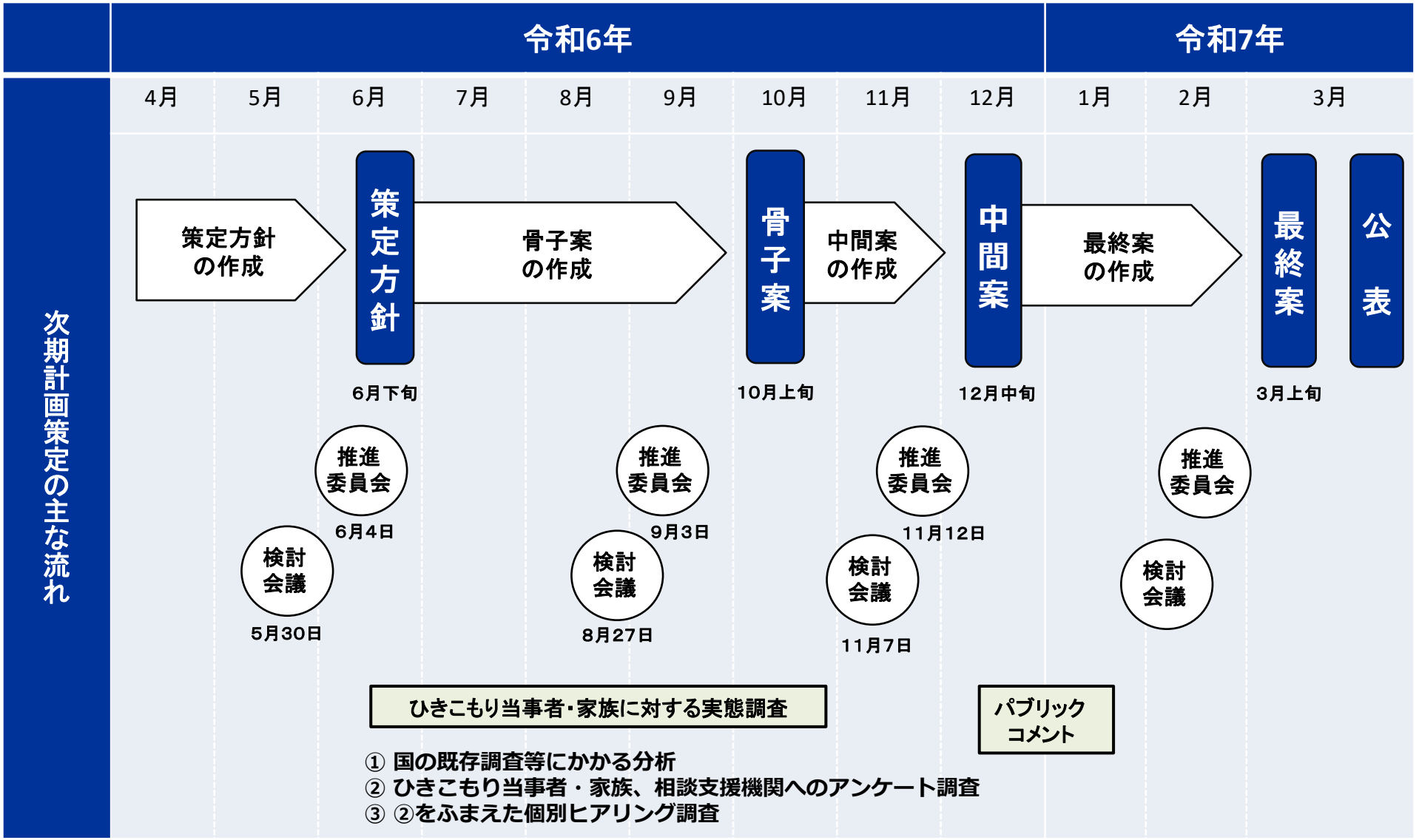
（１）現行計画の進捗状況や課題を検証したうえで策定する。

（２）県内におけるひきこもりの実態や支援ニーズを把握するための実態調査を実施し、その結果をふまえ策定する。

（３）8050問題のように課題が複合化・複雑化している中高年層の当事者等への支援についても盛り込み、より包括的な取組を推進するための計画として策定する。

（４）国が新たに策定する「ひきこもり支援ハンドブック～寄り添うための羅針盤」の検討状況を見据えて策定する。

（５）地域福祉分野の上位計画にあたる「三重県地域福祉支援計画」の次期計画策定との整合性を図りながら策定する。

次期「三重県ひきこもり支援推進計画」策定に向けて

次期「三重県ひきこもり支援推進計画」の策定スケジュール（案）